

まちづくり②

花ざかりの市民憲章運動

海や河川の清掃活動 花いっぱい

茨城・ひたちなか市市民憲章推進協議会





七月八日の日曜日、ひたちなか市内の河川や海岸では、一斉清掃活動が行われた。

朝七時過ぎ、集合場所に指定された橋のもと、コミュニティセンターや集会所には続々と人たちが集まってくる。清掃箇所は、河川では、水戸市との境界になっている那珂川流域で三か所、那珂川の支流である本郷川、大川、中丸川の三か所で、計六か所。参加者は、各地区の自治会や、校長会、郵便局、農協支部、地元企業から総勢六百名あまりが参加して行われた。また、那珂湊漁港でも海岸のクリーン活動もあわせて実施された。ここにも漁協関係者や近辺の自治会から二百名あまりが参加した。

七時三十分、早速参加者にビニール袋と軍手が手渡され、あいさつや清掃上の注意を聞いたあと一斉に清掃活動に散っていく。

参加者は背丈ほどもある葦に身を隠しながら、そしてぬかるみにはまりながらもゴミを拾い出していく。じきにビニール袋には、捨てられた空き缶、紙くずなどいっぱいになってしまふ。

この清掃活動は、ひたちなか市市民憲章推進協議会環境部会が主催し、毎年行なっているもの。今年で十一回目を数える。さらに、ひたちなか市だけでなく、県内のほかの市町村、お隣の栃木県の市町村をあわせて、二十一市町村の住民や関係する団





体が参加し、那珂川と久慈川の両流域を対象に行われているもの。例年当日の参加者は、およそ三万人、流域全体で回収されるごみの量は九十トンを超えるという。

一方、花いっぱい活動も日常的に行われている。

「メンバーは、散歩の途中でも、花摘みをしたり、草を抜いたりして手入れに余念がありません。みんな、自分の庭の花と同じように愛着を持ってこの花を育てています。これからは、それぞれの柵に担当の方の名前を書いた札をつけようと思っています」——と中根小砂ミセスセミナーの学級長の伊藤昭子さんは言う。

ここひたちなか市の中根地区のフラワードロ―では、ミセスセミナーの女性たちが、自分たちの受持ちである市の中心地を走る道路の両側にある柵の花の維持、管理をしている。

この日は、六月の下旬とはいいながら陽射しの照りつけが強い日だったにも関わらず、メンバーが二十人ほどが集まり、柵内の石やごみを取り除き、雑草を取り除き、歩道の清掃を行なっている。この通りには、全部で五十七の柵があり、それぞれの柵には、いまを盛りと日々草、マリンゴールド、糸葉春車菊（コレオプシス）、ベチニアなどが研を競っている。





この中で、糸葉春車菊は、農家を営んでいるメンバーが一株から、六年、七年の歳月をかけ丹精こめて増やしていったものだ。この花壇の花々は道行く人の目を楽しませてくれるのはもちろんのこと、近くの病院で療養中の人たちの散歩コースにもなっている。

清掃活動、花いっぱい市民憲章運動は花ざかりである。

連絡先〓ひたちなか市市民憲章推進協議会
(ひたちなか市市民生活部自治防災課内)

TEL〇二九二七三〇一一

